

**【演題名】**

霰粒腫に対する Intense Pulsed Light 治療を含むマイボーム腺温存療法

**【英文タイトル】**

Meibomian Gland Preserving Treatment Including Intense Pulsed Light for Chalazia

**【ショートタイトル】** 霰粒腫に対する IPL 治療

**【英文ショートタイトル】** IPL therapy for chalazia

福岡詩麻 1,2、有田玲子 2,3

1. 大宮はまだ眼科西口分院、2. LIME 研究会、3.伊藤医院

**【目的】** マイボーム腺の形態と機能を温存するという観点から、霰粒腫の「切らない」治療が見直され、霰粒腫に対する Intense Pulsed Light 治療(IPL)の有効性も報告されている。IPL 導入前の霰粒腫患者の手術率は 58 例中 7 例 12%、マイボーム腺温存療法による治癒率は 55% だった(2022 年日眼)。今回、IPL 導入後の IPL 率と手術率、IPL を行った症例の経過について調べた。

**【方法】** 2022 年 3 月～2023 年 6 月に大宮はまだ眼科西口分院に初診の霰粒腫患者 214 例について、カルテ記載からレトロスペクティブに解析した。

**【結果】** IPL とマイバム圧出、温罨法、眼瞼清拭を 12 例 6%(男 2 例、女 10 例、年齢 35.7 ±10.7 (22～55)歳)、手術を 8 例 4%(男 1 例、女 7 例、年齢 38.3 ±8.9 (27～53)歳)に施行した。IPL 導入前より有意に手術率が減少した ( $p < 0.01$ )。IPL 群の 4 例が他院で霰粒腫手術歴があり、2 例が当院で術後に IPL を行った。1 例のみ IPL 後に手術を要した。全例 MGD を合併していた。IPL 群の観察期間は 8.0 ±5.4 ヶ月。霰粒腫発症後 IPL 開始までの期間は 3 週間～15 ヶ月。IPL 開始時 1.9 ±1.6 (0～6)個の霰粒腫を認めた。IPL を 4.8 ±3.1 (2～13) 回施行した。霰粒腫の再発が IPL 前後で 11 例(92%)から 3 例(25%)に減少した( $p = 0.005$ )。IPL 前後にステロイド注射を 5 例と 2 例に施行した。IPL 後 11 例(92%)で霰粒腫が治った。

**【結論】** 多発・再発霰粒腫は MGD を合併していた。霰粒腫に対する IPL により、手術を減らし、再発を予防することができた。